

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

令和元年9月理事会 議事録

日 時 令和元年9月11日(水) 16:00~17:40

開催場所 LANDMARK SQUARE TOKYO 品川 29F「モニカ」

<出席理事・監事>

会 長	荻原 紀男	株式会社豆蔵ホールディングス
筆頭副会長	水谷 学	ピー・シー・エー株式会社
副 会 長	伊藤 裕二	株式会社フォーラムエイト
	田中 邦裕	さくらインターネット株式会社
	田中 啓一	日本事務器株式会社
	豊田 崇克	ネクストウェア株式会社
	山本 祥之	株式会社インテリジェント ウェイブ
専 務 理 事	笹岡 賢二郎	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
名 誉 会 長 理 事	和田 成史	株式会社オービックビジネスコンサルタント
理 事	牛田 勉	SAPジャパン株式会社
	大塚 桂一	インテル株式会社
	岡本 浩一郎	弥生株式会社
	小川 敦	株式会社アール・アイ
	加藤 智巳	株式会社ラック
	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サーブ
	小柳 諭司	株式会社内田洋行
	杉本 淳一	株式会社コスモ・コンピューティングシステム
	瀧 進太郎	BBソフトサービス株式会社
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
	板東 直樹	アップデートテクノロジー株式会社
	東尾 公彦	コナミホールディングス株式会社
	藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社
	別所 直哉	ルークコンサルタンツ株式会社
	松倉 泉	株式会社Harness LLP
	村瀬 正典	株式会社バース情報科学研究所
	吉田 一也	株式会社アスペックス
監 事	齋藤 康之	税理士齋藤康之事務所
	三木 剛	中本総合法律事務所 東京事務所
オブザーバ	守谷 学	経済産業省 商務情報政策局情報技術利用促進課 課長補佐
事 務 局	井上、戸島、中野、西村、山田、横井	

<欠席予定理事>

理 事	青野 慶久	サイボウズ株式会社
	浦川 伸一	SOMPOシステムズ株式会社
	襟川 芽衣	コーエーテクモホールディングス株式会社
	大塚 裕司	株式会社大塚商会
	大三川 彰彦	トレンドマイクロ株式会社
	北原 佳郎	ラクラス株式会社
	菅谷 俊二	株式会社オブティム
	杉原 佳堯	Netflix株式会社
	富田 祐子	センターフィールド株式会社
	中村 憲司	株式会社大和コンピューター
	干潟 康夫	TAC株式会社
	平野 拓也	日本マイクロソフト株式会社
	八劔 洋一郎	株式会社ワークスアプリケーションズ
監 事	山田 隆明	わくわく経営株式会社

議事に先立ち、経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課 守谷学課長補佐より、資料に基づき、デジタル経済で生じている変化とその対応、今後1年半の間に重点的に行っていく5つの柱、そして8月に発表された概算要求などについてご説明頂き、CSAJにも引き続き支援を依頼された。

議事

定款第34条に基づき荻原紀男会長(代表理事)が議長となり、開会を宣言した。原洋一理事・事務局長から、理事39名中26名の出席により、定款第35条に基づき、理事会が適法に成立した旨の報告があった。また、議事録作成後、定款第37条に基づき、本理事会に出席のあった荻原紀男会長、齋藤康之監事、三木剛監事が、議事録署名人として記名押印する旨、説明の後、議事に入った。

審議事項1 理事候補選定準備会設置の件

笹岡賢二郎専務理事より、資料に基づき令和2年6月の理事改選にむけて、8月開催の総務委員会で理事候補選定準備会を設置することが確認され、下記のメンバーが選定されたことおよび今後のスケジュール等について資料に基づき説明があり、原案どおり承認された。

理事候補選定準備会メンバー：13名

(会長、筆頭副会長、副会長6名、専務理事、理事3名、監事1名)

委員長：荻原紀男会長

委員：水谷学筆頭副会長、青野慶久副会長、伊藤裕二副会長、田中邦裕副会、
田中啓一副会長、豊田崇克副会長、山本祥之副会長、笹岡賢二郎専務理事、
木田徳彦理事、松倉泉理事、村瀬正典理事、三木剛監事

審議事項2 新入会員承認および会員拡大について(入会状況報告)

笹岡賢二郎専務理事より、入会を希望する以下、4件(正会員3社、賛助会員1社)について説明があり、原案どおり承認された。

なお、承認後の会員総数は655社(有料会員数は576社、準会員79社)となった旨報告があった。あわせて平成30年度・令和元年度の理事・監事からの新規会員の紹介状況について報告があり、荻原紀男会長から今年度のご協力に御礼を述べるとともに、令和元年度末の目標である会費収入予算に対し、約700万円不足している旨報告があり、理事・監事各位に引き続き協力を依頼した。

正会員(3件)

株式会社エーティーワークス

株式会社オレンジリンクス

株式会社株式会社セブン&アイ・ネットメディア

賛助会員(1件)

一般財団法人関西情報センター

審議事項3 第11回NAPROCK国際プログラミングコンテスト(ベトナム大会)共催依頼について(追加案件)

笹岡賢二郎専務理事より、資料に基づき、高専プロコン交流育成協会(NAPROCK)が、ベトナム(ハノイ)で第11回NAPROCK国際プログラミングコンテストを開催するにあたり、CSAJに対し共催及び組織委員会へのメンバー派遣について要請があった旨説明があり、原案通り承認された。

また、組織委員会メンバーとして派遣される豊田崇克副会長より、海外人材の育成やCSAJ会員企業の人材登用に寄与したい旨、補足説明があった。

報告事項1 「人づくり国民会議」について

荻原紀男会長より、「人づくり国民会議」について、少子化が進む中で、教育そのものにITを取り入れて優秀な人材育成していく政策を安倍首相がリーダーとなって立ち上げられるようにCSAJから発信していきたい旨、説明がなされた。

小柳諭司理事からは、現在の教育現場では、グループワークやアクティブラーニングを行うにしても従来のインフラでは対応しきれず、例えハードウェアを整備してもコンテンツ管理や教師へのトレーニングをどのように総合的に指導していくかどうかの課題があり、一社では対応できないとのことでCSAJ会員企業と協力し日本の教育を進めていきたいと発言された。

報告事項2 政策要望書の提出について

政策要望書の提出について、笹岡賢二郎専務理事からは、以下の1, 2, 5, 6, 7の政策要望および『「軽減税率対策補助金」の要件緩和に関する緊急提言』について説明があり、岡本浩一郎理事からは、以下の3, 4の政策要望について説明がなされた。

<提出した政策要望書>

1. 地域交通の利用による多面的効果の検証に係る業務の委託事業（通称：クロスセクター効果検証業務）の実施
2. IT導入補助金の規模拡大と使い勝手の向上
3. 銀行法の改正
4. 電子帳簿保存法および関係法令の改正
5. 日印租税条約の技術上の役務に対する源泉税
6. 人づくり国民会議の創設
7. 情報セキュリティ教育の義務化

なお、補足として、荻原紀男会長よりIT導入補助金については、1千億円の要望を提出した旨、報告があった。

報告事項3 CSAJ将来ビジョンの検討について

荻原紀男会長より、資料に基づきCSAJの将来に向けて、多角的に意見を求める「CSAJ将来ビジョン検討会(仮)」を設置することが、総務委員会で確認された旨報告があり、理事の参加を求めた。今後のCSAJの在り方として、勝ち続ける企業に入会してもらうためには、新技術を習得し、そして普及することで、いち早く政策と結びつき、支援を得られ、その結果、CSAJがさらに成長できるのではないかと発言された。参加希望の理事は9月末までに事務局に参加表明するよう要請した。

報告事項4 データ適正消去実行証明書発行事業の事業計画変更の件

笹岡賢二郎専務理事より、データ適正消去実行証明書発行事業では、スマートフォン／タブレットおよびサーバーに事業対象を広げたことによる事業計画の見直しを行っている旨説明があり、12月理事会には事業計画変更案を建議する準備を進めているとの報告があった。

報告事項5 一般財団法人機械システム振興協会「イノベーション戦略策定事業」 テーマ募集について

笹岡賢二郎専務理事より、令和2年度の一般社団法人機械システム振興協会「イノベーション戦略策定事業」のテーマ募集が開始されているとの説明があり、応募したいテーマがあれば、令和元年9月19日(木)17時まで事務局まで連絡するよう依頼した。

報告事項6 CEATEC 2019の開催について

笹岡賢二郎専務理事より、CEATEC2019が10月15日～18日の期間で開催されるとの説明があり、初日に開催されるオープニング・レセプションやCSAJ企画コンファレンス等が紹介され、理事各位への参加を依頼した。

■オープニング・レセプション(CEATEC開催初日)

日時 10月15日(火)18:30～20:30

会場 パレスホテル東京

■CSAJ 企画コンファレンス

- ・10月16日(水)

Mixed Reality 最前線～実用化に近づいたMR 導入の実態と可能性

アクセシビリティ最前線 ～マイクロソフトの取り組みと事例紹介～

- ・10月17日(木)

IoT時代のゼロディ攻撃と防御 受け入れ必至 “Zero Trust” とは

IoT時代に必要な PSIRT とその役割 進化する攻撃に対するコンポーネント管理の在り方

パネルディスカッション IoT時代におけるセキュリティ対応態勢のありかた

－ シフトレフトする攻撃に生き残れ！ －

報告事項7 その他

その他の事項については、それぞれ以下通り説明があった。

1. 認証要件設計検討会（特定非営利法人 ITコーディネータ協会）への参加について
水谷学筆頭副会長より、中小企業共通 EDI 仕様は特定非営利法人 IT コーディネータ協会の「つなぐ IT 推進委員会」で開発されているが、「中小企業共通 EDI」の普及推進に向け、認証要件設計検討会（つなぐ IT 推進委員会・標準部会）が設置されたこと及びその座長として自分が就任する旨報告があった。
 2. 理事について
笹岡賢二郎専務理事および原洋一理事・事務局長より、理事の所属変更について説明
 - ・杉原佳亮理事（グーグル合同会社からの転職）
 - Netflix株式会社 コーポレートディレクター・公共政策担当
 - ・別所 直哉理事（ヤフー株式会社は現職ですが、代表取締役として表記変更を希望）
 - ルークコンサルタンツ株式会社 代表取締役
 - ・平野 拓也理事（日本マイクロソフト株式会社 代表取締役社長退任により現職に変更）
 - 日本マイクロソフト株式会社 特別顧問
 3. 情報化促進貢献個人等表彰候補者推薦の件
笹岡賢二郎専務理事より個人部門で1名推進した旨報告
 4. 2019日中ソフトウェア発展大会等の開催報告
原洋一理事・事務局長より7月に中国江蘇州南通市で開催した2019日中ソフトウェア発展大会および深セン～成都を巡る中国視察ツアーを実施した旨報告
これに対し、荻原紀男会長より、CSAJ上海事務所の現状について質問があり、原洋一理事・事務局長より、外交的課題もあり、中国貿易サービス協会の調整が続いているが現時点ではまだ中国政府での承認が取れていない、ただ、年内の承認を取るべく調整中とのことで回答があった。
 5. U-22プログラミング・コンテスト2019応募結果（速報）について
笹岡賢二郎専務理事より408件のエントリーがあった旨報告
 6. 地域IoT推進委員会での活動について
豊田崇克副会長より、地域IoT推進委員会活動の一環として「CSAJピンバッジ」作成を報告
 7. モデル契約進捗報告 セキュリティ検討PT設置について
板東直樹理事より、モデル契約進捗・セキュリティ検討PT設置について説明があり、セキュリティ検討プロジェクトチームの中では加藤智巳理事が主査に就任した旨をあわせて報告
これに対し荻原紀男会長より、2次請け3次請けの会社のセキュリティ環境が違う中で民法上での責任を負うことへの懸念について質問があり、板東直樹理事より、なるべく具体的に誰もが維持できるセキュリティガイドラインを作成する意向を示し、情報公開に取り組んでいくことの回答があった。
- 以下の事項については、笹岡賢二郎専務理事が説明。
8. 厚生労働省委託事業／ビジネス創造プログラム研修講座第2回目を募集中
 9. IPA幹部とCSAJ幹部陣との意見交換会(11月)開催について
 10. 清水洋三元専務理事偲ぶ会終了報告
※荻原紀男会長からは、清水洋三元専務理事を偲ぶ会に参列した理事各位への謝意が伝えられた。
 11. 2020年1月賀詞交歓会の開催について
 12. 会員交流会(9月11日)の開催について
 13. 後援名義等の使用申請について
 14. 今後開催を予定しているセミナー等について
 15. 各種セミナー・イベントの終了報告
 16. 今後のスケジュール

議長が以上をもって本日の議事が全て終了した旨を述べ、最後に意見を求めたところ、以下の意見、質問等があった。

- ・伊藤裕二副会長：PSQの対談を藤井洋一理事と行い、BCNニュースに掲載されると報告があった。また、会員拡大について今回入会された新規会員企業を例にし、CSAJに入ることが企業にとってITに関わることが経営力、営業力の拡大、拡張できると発言された。
→これに対し荻原紀男会長から、セミナーの情報をエンドユーザーに紹介し、CSAJに加入している事の意味等がわかるのではないかと補足説明された。

- ・和田成史名誉会長：クラウドによる品質保証は重要になってくるし、制度改正なども始まるとデータの信頼性をどう担保していくのかが、重要になってくる。スタートアップ企業に関して、IoT、DX等新しい流れにチャレンジする企業が出てくる、CSAJでも受け入れて協会としても成長していけるように新しい企業の勧誘を促したい。
- ・板東直樹理事：加藤智巳理事が、先般、文部科学省へ学校のセキュリティに関して説明に行った旨、報告があった。文部科学省はクラウドを利用したいが、現場の先生がクラウドを扱いきれないと言われている。人づくり国民会議でもクラウドを取り入れることで、整合性が取れ、セキュリティのレベルも上がり、税金投入も少なく済むので、配慮して頂きたいと要望を述べた。
 - 荻原紀男会長：田中邦裕副会長のところで、日本全国の子供たちの知識データを収集して有効利用してはどうかと提案された。
- ・小川敦理事：アマゾンでの大規模障害について、実態を調べるのに時間がかかっている。今後クラウドをライフラインとするなら、法的に調査が必要だと思う。CSAJも何か働きかけができるのではないかと考えている。
 - 田中邦裕副会長：アマゾンや、グーグルはセキュリティ認証は取っているが、データセンターの監査を受けていない。クラウドの事業者として、公表していくことを怠っているのではないか。他方で、AWSの事故でクラウド事業者が感じたのは危機であった。昔ながらのITをパッケージソフトにしてクラウド化していくという流れがビジョンであるが、課題としてサービス化をどうするのか、SaaSモデルをどうしたらいいのかと若手の会でもよく議題に上がる。クラウドは大丈夫と業界でいいつつ、経済産業省やユーザーが求めているサブスクリプションやクラウドのSaaSモデルを示していくことで3～5年間でクラウドへ移行するような雰囲気を作り出すのが重要だと、意見を述べた。
 - 和田成史名誉会長：JCSSA会員もクラウドに移行しはじめた。マーケットも、お客様もクラウド化に向けて歩みだしていると発言された。

議長が以上の討議をもって本日の議事が終了した旨を述べ、散会した。

なお、議事の経過および決議を明確にするため、本議事録を作成し、代表理事・会長(議長)および監事がこれに記名押印する。

令和元年 9月 日

一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会

代表理事・会長(議長)

印

監事

印

監事

印